

# 株式会社椿本チエイン 2009年度 第2四半期(中間)決算説明会



2009年11月18日

# 「2009年度 上期業績報告 および通期の見通し」

# 1. 09年度上期レビュー 決算のポイント

- 前年同期比で大幅な減収減益も、売上高は第1四半期で底打ち
- 緊急対策（固定費削減）や自動車部品事業の売上高増加により、8月7日発表の修正予想から収益性を改善

(単位:百万円)

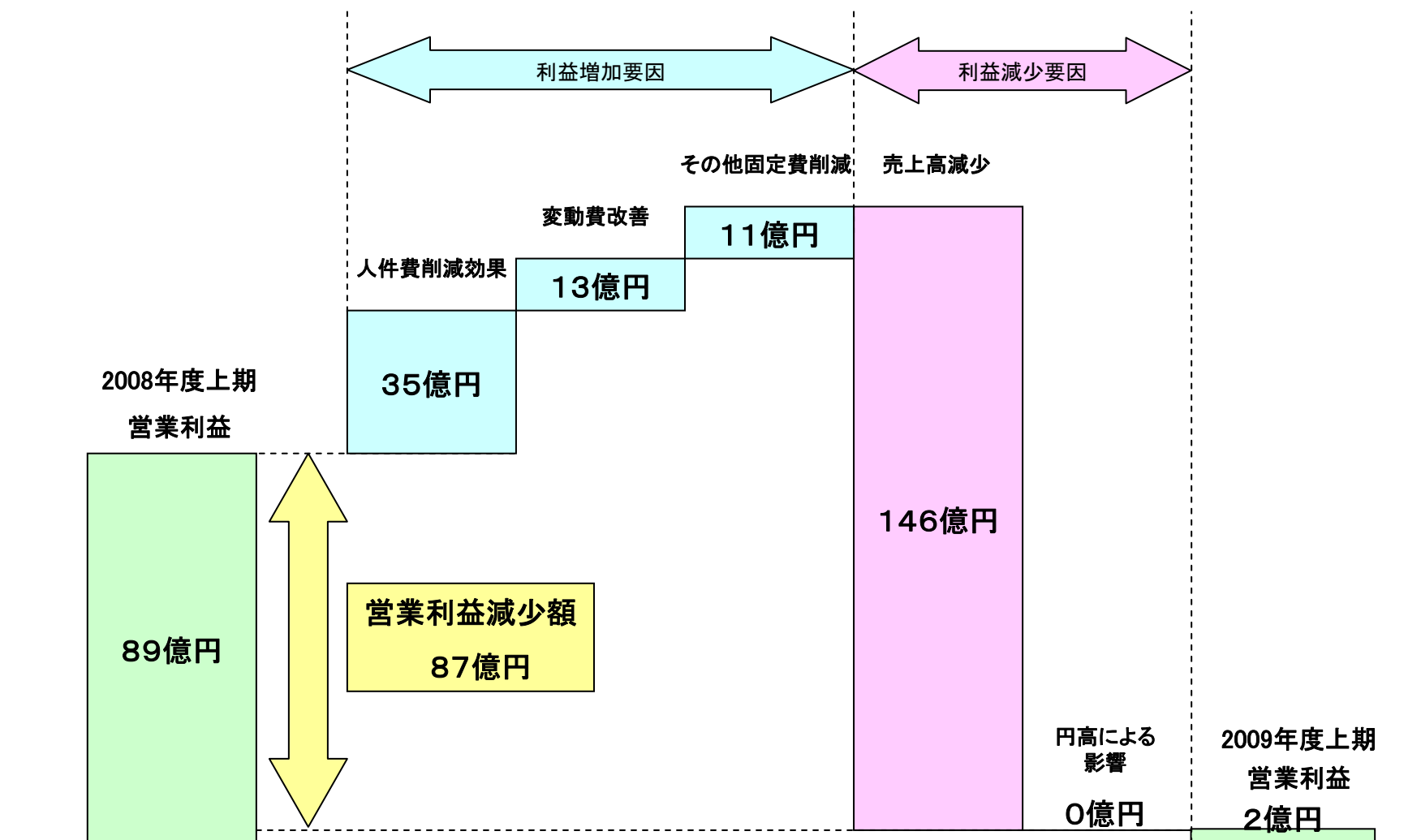
	2008年度		2009年度	増 減 (増減率)	
	上期	下期	上期	前年同期比	8/7修正計画比
売上高	82,057	59,460	50,503	▲ 31,554 (▲38.5%)	+ 2,503 (+ 5.2%)
営業利益	8,942	153	183	▲ 8,759 (▲98.0%)	+ 1,283 (—)
経常利益	9,066	262	522	▲ 8,544 (▲94.2%)	+ 1,222 (—)
経常利益率	11.0%	0.4%	1.0%		
当期純利益	5,612	576	507	▲ 5,105 (▲91.0%)	+ 1,007 (—)
自己資本比率	41.6%	43.9%	44.0%		
D/E 比率	0.45	0.48	0.55		
1株当り配当(円)	4	4	3		

<主な為替レート> 08上期実績: US \$ = 106.12円、Euro = 162.79円  
 08通期実績: US \$ = 100.72円、Euro = 144.07円  
 09上期実績: US \$ = 95.54円、Euro = 133.22円

## 2. 連結営業利益増減要因 (08上vs09上)

3

### ■ 2008年度上期と2009年度上期比較



### 3. 09年度上期レビュー 事業セグメント別内訳

■パワトラ事業部門：自動車減産、設備投資減少等により  
3事業とも大幅な減収

■マテハン事業部門：自動車業界向け、工作機械向けの  
売上が大幅に減少

(単位:百万円)

	2008年度実績		2009年度実績	増 減 (増減率)	
	上期	下期	上期	前年同期比	8/7修正計画比
■売上高					
パワトラ事業部門	-GB数値(参考)-				
チェーン事業	24,100	19,800	16,500	▲ 7,600 (▲ 31.5%)	+ 900 (+ 5.8%)
精機事業	14,800	11,400	8,300	▲ 6,500 (▲ 43.9%)	+ 200 (+ 2.5%)
自動車部品事業	25,700	16,500	16,400	▲ 9,300 (▲ 36.2%)	+ 1,400 (+ 9.3%)
マテハン事業部門	-GB数値(参考)-				
マテハン事業	16,300	11,300	8,800	▲ 7,500 (▲ 46.0%)	▲ 300 (▲ 3.3%)
■営業利益率					
パワトラ事業部門	13.9%	4.1%	3.9%		
マテハン事業部門	9.9%	0.9%	▲ 0.6%		

<主な為替レート> 08上期実績： US\$ = 106.12円、Euro = 162.79円  
 08通期実績： US\$ = 100.72円、Euro = 144.07円  
 09上期実績： US\$ = 95.54円、Euro = 133.22円

## 4. 09年度上期レビュー 事業別営業の概況

5

### ■第1四半期から第2四半期にかけて、事業環境は緩やかに回復しつつあるが、依然として厳しい状況が続く

事業	概況
チェーン	<ul style="list-style-type: none"> <li>●国内は、食品業界向けが堅調も、工作機械業界向けなど、その他は総じて不調</li> <li>●海外は、U. S. TSUBAKI, INC. (米国)が対前期比36.5%減 TSUBAKIMOTO EUROPE B. V. (欧州)が同35.4%減となるなど、大きな落ち込み</li> </ul>
精機	<ul style="list-style-type: none"> <li>●全般的に大幅な減収</li> <li>●国内は、造船向けが底堅く、液晶・IT関連向けでは回復の兆しが見られる</li> <li>●海外は、U. S. TSUBAKI, INC. (米国)が対前期比43.3%減 TSUBAKIMOTO EUROPE B. V. (欧州)が同41.7%減</li> </ul>
自動車部品	<ul style="list-style-type: none"> <li>●国内は、環境対応車を中心に回復基調も前年同期比では40.6%減</li> <li>●海外も、U. S. TSUBAKI, INC. (米国) 同27.9%減 TSUBAKIMOTO EUROPE B. V. (欧州) 同50.4%減 TSUBAKIMOTO AUTOMOTIVE (SHANGHAI) CO., LTD. 同24.9%減、 TSUBAKIMOTO AUTOMOTIVE (THAILAND) CO., LTD. 同54.0%減</li> </ul>
マテハン	<ul style="list-style-type: none"> <li>●流通業界向け仕分け装置が好調も、自動車業界向け搬送システムの売上が減少</li> <li>●粉粒体搬送設備はセメント向けを中心に堅調に推移したが、鉄鋼関係の大口案件がなくなった影響で18.0%減</li> <li>●工作機械向けのチップコンベヤは同70.2%減と大幅減収</li> </ul>

## 5. 09年度上期レビュー 所在地別セグメント

6

### ■ 全地域で減収減益ながら 第2四半期にかけて緩やかに回復の兆し

(百万円)

		2008年度 上期実績	2009年度 上期実績	前年同期比増減 増減額 (増減率)	
日 本	売上高	66,373	39,375	▲ 26,998	(▲40.7%)
	営業利益	8,103	846	▲ 7,257	(▲89.6%)
	営業利益率	12.2%	2.1%		(▲10.1%)
北 米	売上高	14,590	8,992	▲ 5,598	(▲38.4%)
	営業利益	958	▲ 158	▲ 1,116	( — )
	営業利益率	6.6%	—		( — )
欧 州	売上高	4,730	2,678	▲ 2,052	(▲43.4%)
	営業利益	477	64	▲ 413	(▲86.6%)
	営業利益率	10.1%	2.4%		(▲7.7%)
アジア・オセアニア	売上高	6,914	4,108	▲ 2,806	(▲40.6%)
	営業利益	1,127	364	▲ 763	(▲67.7%)
	営業利益率	16.3%	8.9%		(▲7.4%)
その他	売上高	53	16	▲ 37	(▲69.8%)
	営業利益	▲ 11	▲ 25	▲ 14	( — )
	営業利益率	—	—		( — )
連 結	売上高	82,057	50,503	▲ 31,554	(▲38.5%)
	営業利益	8,942	183	▲ 8,759	(▲98.0%)
	営業利益率	10.9%	0.4%		(▲10.5%)

<実績為替レート>

'08/上: US\$=¥106.12, EURO=¥162.79, Can\$=¥103.51, A\$=¥97.29, THB=¥3.32, NT\$=¥3.44, RMB=¥14.86

'09/上: US\$=¥95.54, EURO=¥133.22, Can\$=¥84.34, A\$=¥75.99, THB=¥2.73, NT\$=¥2.90, RMB=¥13.99

## 6. 2009年度 通期見通し

7

- 景気の底打ちは見られるものの、設備投資の回復が遅れており、売上高の通期見通しは期初予想どおり
- 収益面では上方修正を実施  
固定費などの経費削減にグループをあげて取り組む

(単位:百万円)

	2009年度			増 減 (増減率)			
	上期	下期予想	通期見通し	下/上比	(増減率)	通期 期初予想比	(増減率)
売上高	50,503	59,497	110,000	+ 8,994	(+ 17.8%)	+ 0	(+ 0.0%)
-GB数値(参考)-							
チェーン事業	16,500	17,800	34,300	+ 1,300	(+ 7.9%)	▲ 3,000	(▲ 8.0%)
精機事業	8,300	10,100	18,400	+ 1,800	(+ 21.7%)	▲ 2,400	(▲ 11.5%)
自動車部品事業	16,400	19,500	35,900	+ 3,100	(+ 18.9%)	+ 5,500	(+ 18.1%)
マテハン事業	8,800	12,300	21,100	+ 3,500	(+ 39.8%)	+ 700	(+ 3.4%)
営業利益	183	1,617	1,800	+ 1,434	(+ 783.6%)	+ 1,000	(+ 125.0%)
経常利益	522	1,478	2,000	+ 956	(+ 183.1%)	+ 1,300	(+ 185.7%)
経常利益率	1.0%	2.5%	1.8%				
当期純利益	507	1,193	1,700	+ 686	(+ 135.3%)	+ 1,400	(+ 466.7%)

<主な為替レート> 期初想定: US\$ = 90円、Euro = 115円

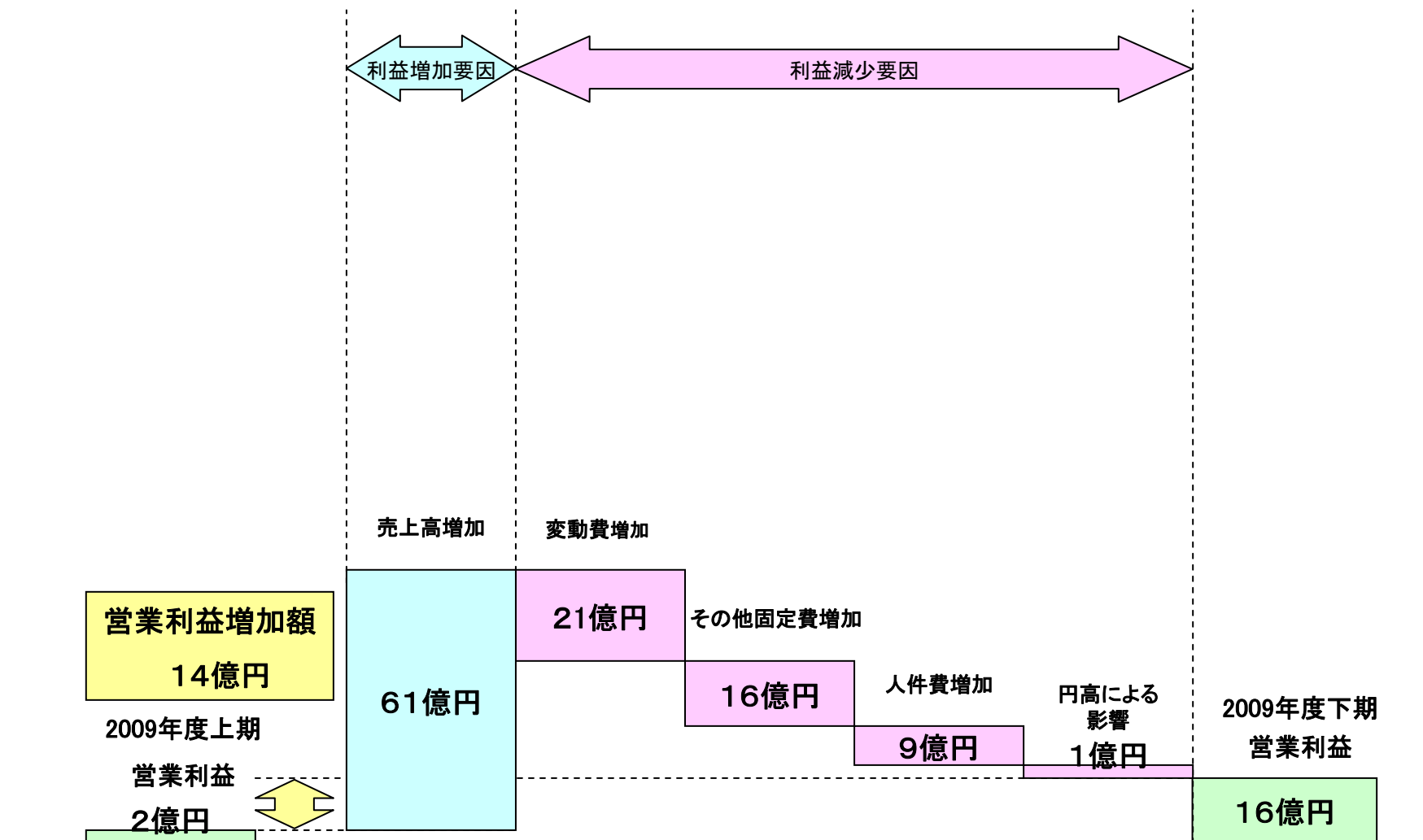
上期実績: US\$ = 95.54円、Euro = 133.22円

通期想定: US\$ = 90円、Euro = 115円



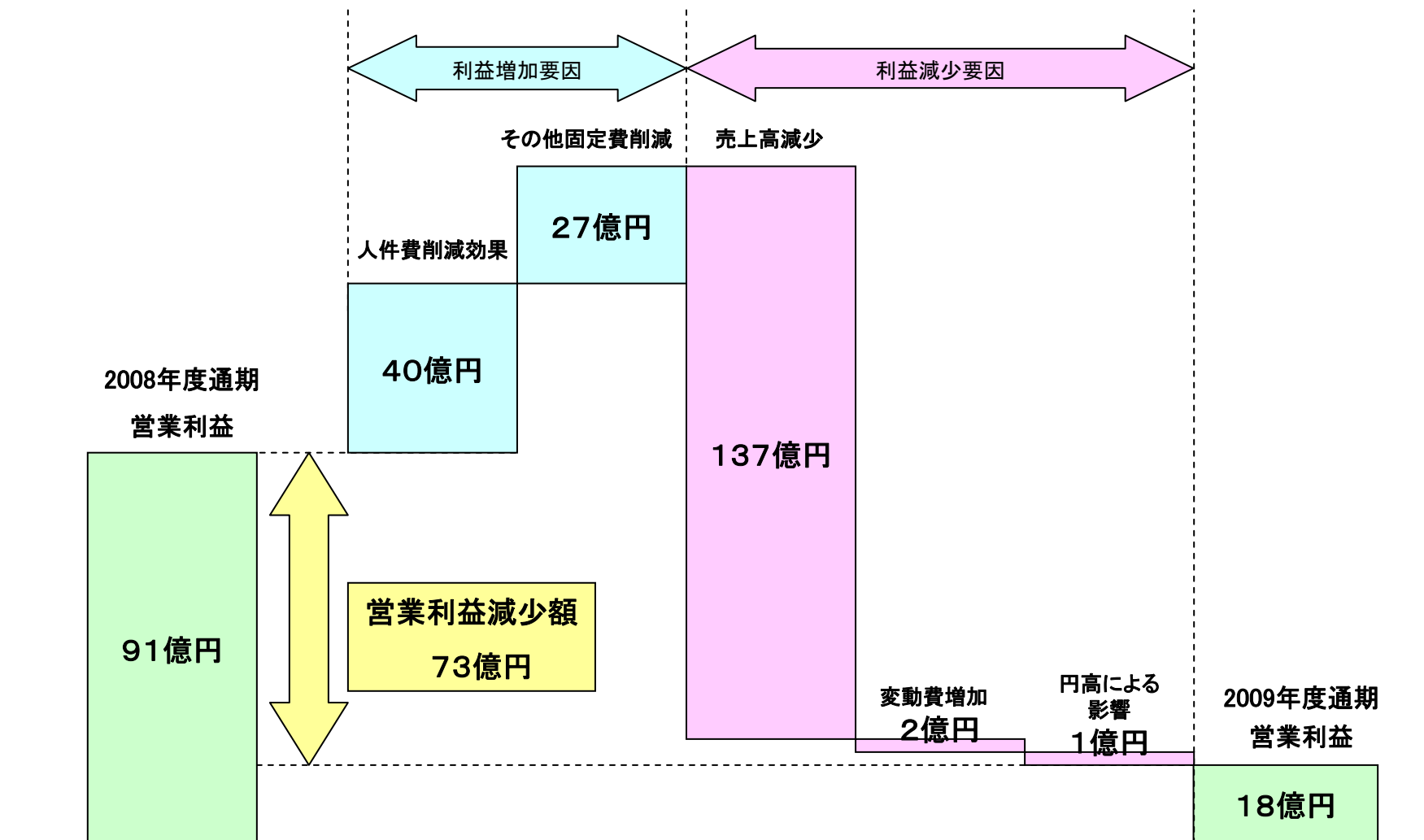
# 7. 連結営業利益増減要因 (09上vs09下)

## ■ 2009年度上期と2009年度下期比較



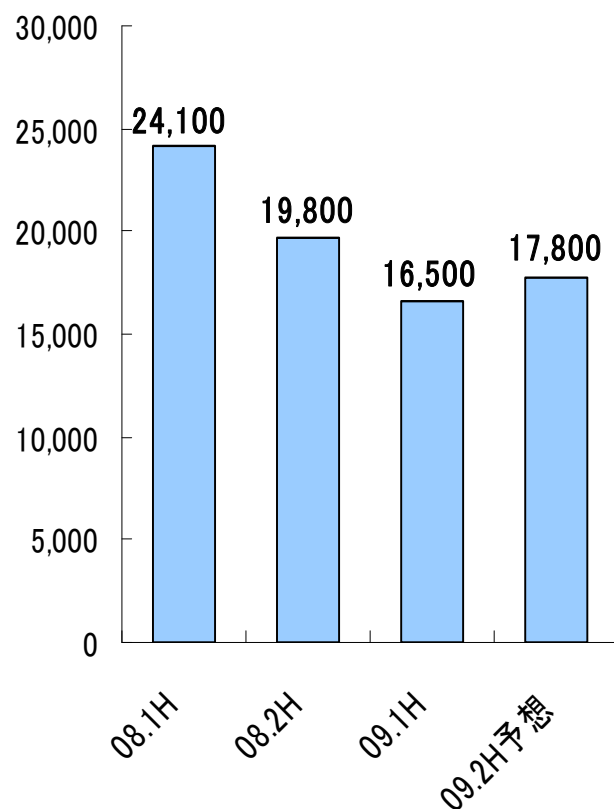
# 8. 連結営業利益増減要因 (08vs09)

## ■ 2008年度通期と2009年度通期比較



■各業界において緩やかな回復の兆しはあるが設備投資に弱さが見られ、底ばい状態が続く

## ●半期ごと売上高推移 (百万円)



## ●注力テーマ

国内：営業&技術が一体となった市場攻略

- ①取替需要の確実な受注  
(鉄鋼、非鉄、食品、環境など)
- ②太陽光発電などの成長分野深耕による受注拡大

海外：特定業界攻略に注力

- ③マイニング産業向けコンベヤチェーン
- ④食品、包装業界向け小形コンベヤチェーン、プラスチックチェーンの品種拡大と欧州OEM開拓

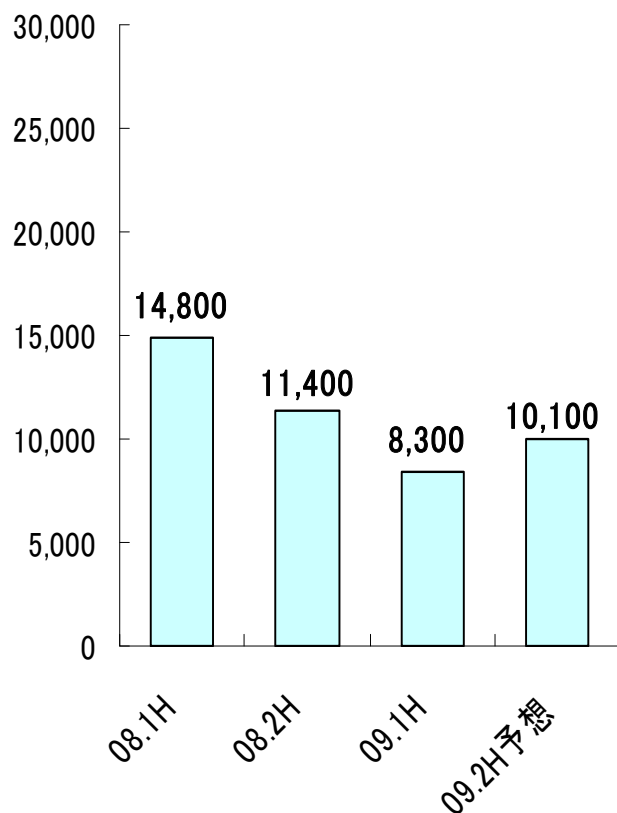
徹底したコストダウン

- ⑤全部門における経費節減の継続実施

# 10. 精機事業 通期見込みと達成方策

■ 液晶・IT関連に緩やかな回復の兆しがあり  
鉄鋼、造船関連は受注残を含め底堅い

## ● 半期ごと売上高推移 (百万円)

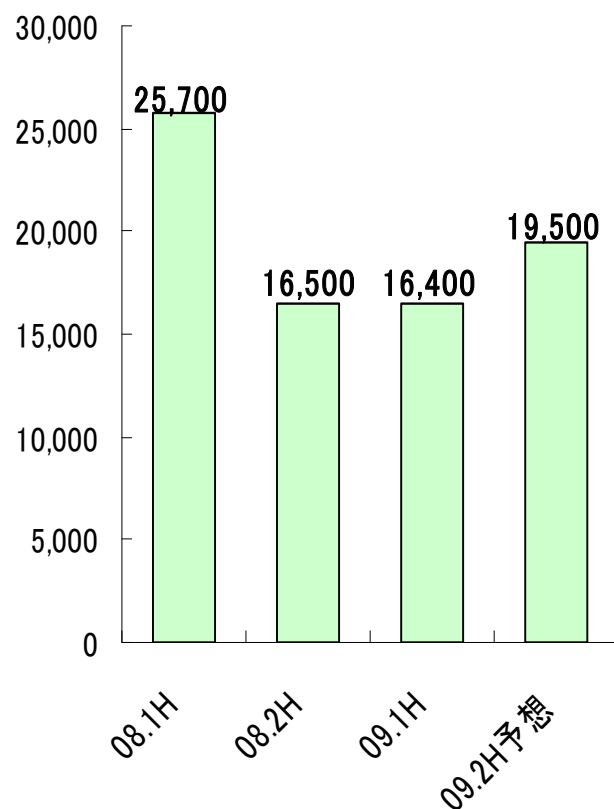


## ● 注力テーマ

- ① 見積案件の徹底フォローによる  
短納期案件の受注獲得
- ② IT・太陽光発電関連への注力
- ③ 新商品の投入
  - ・ ウォーム減速機の機種を拡大し  
アジアトップ商品をめざす
  - ・ 鉄鋼・マイニング業界（豪、ブラジル、南ア）  
向け減速機内蔵型カムクラッチの投入  
（パワーシリンダ、BSカムクラッチ拡販含む）
  - ・ 精密遊星減速機PATシリーズの売上拡大
- ④ リニアモーションビジネス拡大

## ■環境対応車を中心に需要回復の傾向をたどるが 下期後半以降に不透明感が残る

### ●半期ごと売上高推移 (百万円)



### ●5極別見通し

- ①日本 : 下期後半に不透明感あり
- ②米国 : 回復基調で推移したが、下期後半以降は不透明感強い
- ③欧州 : 下期後半に若干持ち直すが、苦戦が続く
- ④タイ : 冷え込んでいた市場が回復基調で推移する
- ⑤中国 : 下期は前年同期を上回る勢い

### ●注力テーマ

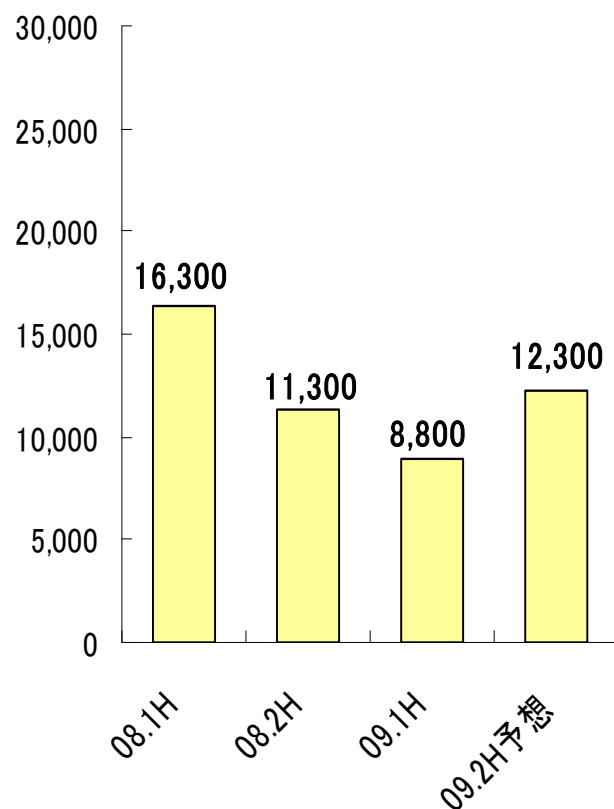
- 市場環境変化へのスピーディな対応
- ・環境対応車、低価格車向け  
新商品開発の強化

## 12. マテハン事業 通期見込みと達成方策

13

■鉄鋼業界向けなどを中心に、下期は上期比で増収となるが自動車関連、工作機械は厳しい状態が続く

### ●半期ごと売上高推移 (百万円)



### ●注力テーマ

#### 受注の確保

- ①メール便仕分け、宅配便仕分け等、流通業界からの新規受注獲得
- ②上期に引き続き、太陽光発電パネル製造プロセスに関する受注獲得  
(既存顧客深耕 & 新規顧客開拓)
- ③老朽化対策などのメンテナンスビジネスに継続して注力

#### コストダウンの徹底

内製化強化による外部流出費削減、現地工事・試運転工数削減など

# 13. 中期計画の策定に向けて

14

- モノづくり企業としての確固たる地位の確立をめざし、中期計画の骨子となる「経営の基本方針」を策定

## ●基本方針

### I QCDSの向上につながる「モノづくり技術」に磨きをかけ、安定的な事業継続の基盤を強化する

- ・製造技術、製品技術の強化と開発力の強化
- ・利益重視の経営

### II 常に顧客の視点に立ち、パワトラ、マテハンの広い分野におけるソリューション提供企業をめざす

- ・パワトラ: 総合力を生かしたソリューション販売
- ・マテハン: ハード志向からソリューション志向へ

### III 「エコ製品」を切り口とした新製品開発を強化する (本業を通じての環境配慮の取り組み強化)

- ・エコ製品 = エコロジー・エコノミー(省エネ・長寿命)
- ・当社独自のエコ評価基準を設け、環境配慮項目を訴求

本資料には、業績見通しおよび事業計画等を記載しております。

これらにつきましては、各資料の作成時点における経済環境や事業方針などに基づいて作成しております。

したがって、各種要因により、これらの業績見通しとは異なる結果になりうることをご承知おきください。